

## 授業時 向上心を高めるために発言や作品をほめる

Eさんは入学当初、自分の名前を書くのもおぼつかなかった。担任のF教諭は、Eさんに無理に書かせようとはせず、字を書く楽しさを伝えようと機会を待っていた。

鉛筆を握り、「よこーに1ぼん、たて1本、くるーんと回して『あ』になった。」と言いながら練習を続けた。

Eさんは、鉛筆の握り具合や力の入れ方が少しずつ理解できたのか、字を書くことに楽しさを覚えたようだった。

F教諭は、「この横棒は元気いいねえ！マスから飛び出しそうだね。」などと声をかけ、よく書けた箇所大きく花丸をつけた。

ある日、「先生見て見て！」とGさんが持ってきたノートには、「あ」の字が6つ書いてあった。

「よくやったね！」

F教諭は、また、大きく花丸をつけてノートを返した。Eさんはうれしそうに笑い、飛び跳ねながら席に戻って行った。



具体的にほめることにより、自信や意欲が一層高まります。また、結果だけでなく、その子がどんな努力をしたかという姿を認めてほめることも大切です。

### よい発言や作品は、具体的に何がよいかをほめる

「国語の読みで、『せりふに感情がこもっていてよかった。』とほめられた。」「ノートのまとめ方を、『きれいに書けていて見やすいね。』と言われた。」というように、何が、どのようによかったのかを具体的に示してあげると、子供の成就感は一層強まります。

また、人に認められたうれしさは、自信や次の目標に向かう新たな意欲にもなります。

### 一人一人のよいところを取り上げ、努力点や長所をほめる

できたことをほめる以外に、その子なりの頑張りをとらえ、努力そのものを認めて評価することが大切です。

「習字で、『前は字が細かったけど、だんだん字が太くなってよくなったね。』と言われてうれしかった。」と書いた子もいます。一人一人の、努力や進歩を認めることが大切なのです。

事例では、Eさんがもらった花丸は上手に書けた「あ」の字に対してでもあり、Eさんの努力する姿に対する評価であったに違いありません。

子供のころの教師の一言で、自分の生きる道を決めた人もたくさんいます。一つ一つの小さな歩みを的確にとらえて、具体的にほめる肯定的な評価が、その後の「生き方」に影響を与えることもあるのです。